

子どもと育つ

# 暑中見舞い 書けるかな？

「見本を見て、自分で書いてみてください」

東京都練馬区の区立仲町小学校。三年三組の児童三十八人を前に、担任の藤垣結髪教諭(三三)の声が響いた。プリントには、何も書いていないはがきの表面が二つ。児童はその左側の見

本を見て表書きに挑戦した。

一人が「(郵便)番号って何？」と質問。他の児童

は宛先の場所に、表書きの必要事項を小さい文字で全て書き入れた。何も書けずぼうぜんとする子もいた。同教諭は文字の配置、大きさをはがきの拡大コピーで説明。植木裕太郎くん(八)は「宛名の大きさが難しい。夏休みにおじいちゃんに送りたい」と満足げ。山本さん(八)は「面白くてわくわくした」と語った。

児童は今後、祖父母などに暑中見舞いを送る予定

## 手紙文化を実体験



3年生に暑中見舞いの表書きを指導する藤垣結髪教諭＝東京都練馬区の区立仲町小学校で

だ。同教諭は「はがきの存在すら知らない子が八人もいて驚き、企画した。昔は家庭で教わったことや、教科書だけでは不十分なものも教えなければ」と話す。

「郵便番号の欄に携帯電話の番号を書くなど、表書きができない子が増えている」と語るのは、「日本郵便」切手・葉書室の山下健一郎担当部長。二〇〇九年の全国学力・学習状況調査(学力テスト)では、六年生の三分の一が正確に表書きできなかった実態を受け、同社では小・中学生を対象に「手紙の書き方体験授業」を全国で行っている。

一三年度の同社調査では、六年生で自分の住所を言えない子が二割も。山下担当部長は「プリンターの普及や個人情報保護の流れが背景にある。手紙では相手の方が差出人よりも大きい、メールでは同じ。相手への敬意を感じる部分が失われてしまつ」と危ぶむ。

いよいよ夏休み。暑中見舞いを送り、近況を伝え合う時季になるが、郵便はがきの書き方を知らない子も多い。子どもたちの手紙事情と書き方のコツを紹介する。(安食美智子)